

NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

ORMZ ニュース第 50 号 (H27.12.14)

事務局：宮崎市生目台西 4-7-7 (メール info@ormz.or.jp) 文責：日高良雄



はじめに 平成 27 年も 12 月、ORMZ の事業年度の最後の月となりました。今年も多くの皆様のご支援により、当初の計画以上の事業を実施することができました。本当にありがとうございました。心からご支援に感謝申し上げます。

今年最後のニュースは、記念すべき第 50 号となりました。

山元香代子先生からのザンビア報告や、徳島大学医学部 3 年生の吉田規朗さんからの同行報告です。

来る平成 28 年も皆様にとって良い年でありますことをお祈りしますとともに、ザンビアの辺地医療を支援する会 ORMZ へのご支援もよろしくお願いします。

経過報告 (27 年 11 月下旬以降)

- ・ザンビアはまだ暑く、事務所のある首都ルサカでは以前よりは改善されたものの、まだまだ計画停電や断水が続いています。巡回診療の状況は山元香代子先生からの報告に詳しく掲載されています。
- ・11 月 26 日、宮崎県から協働事業等に関するアンケート調査があり、日高が回答しています。
- ・以前臨時理事会で井戸掘削の計画変更を行ったのですが、ルアノ地区での掘削で水が出ないことや、ニャンカンガ地区で巡回診療時の施設建設への協力など地域住民の当法人活動への協力対応が改善された事などから、11 月 30 日にニャンカンガ地区で井戸を掘削する事への事業計画変更の臨時理事会を開催し、承認されました。山元先生の報告にも早速掲載されています。
- ・11 月末には、当法人に対するマイナンバーの通知が届きました。今後の報告に使用する予定です。
- ・12 月 15 日に、NPO 法制定・改正や寄附制度拡充の政策提言をされている「NPO 法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会」の方が別件に併せて、認定 NPO 法人制度について当法人に調査したいとおいでになる予定です。せっかくの機会ですので、わからない点等お尋ねしたいと考えています。

活動報告 (ザンビアより山元香代子先生から 12 月 6 日付け)

みなさま、いかがお過ごしですか。日本はすっかり寒くなっていることと思います。こちらは週に 1-2 回雨が降った後は少し涼しくなりますが、まだとても暑いです。本格的な雨季はまだ先のようです。電気は相変わらず、計画停電が続いています。水の出は以前と比べ少し良くなりましたが、安心してると突然断水になったりして、困っています。

11 月 18 日のニャンカンガでの巡回診療は、患者数 65 名と少なかったです。マラリア検査陽性者は 1 名だけでした。かぜ、下痢の患者が多かったです。特に重症患者はいませんでした。建設中の建物には屋根がかけられ、雨季が始まる前には雨がしのげる建物が何とかできそうです。

11 月 25 日のルアノでの巡回診療は、患者数 88 名と少なかったです。マラリア検査陽性者は 2 名でしたが、臨床的にマラリアを否定できない患者が 3 名、かぜが多かったです。特に重症患者はいませんでした。ミニルンガの郡病院で、ボランティアで患者をみておられる鈴記先生、北海道大学の山口先生 (獣



昨年掘った井戸、きれいに使用されています

医師)。徳島大学の医学生吉田さんが同行されました。診療は鈴記先生・準医師のムレタさんをお願いして、私は井戸の見回りに出かけました。どの井戸もきれいに使われていて、安心しました。ただ、トンプエ地区とサパニ地区の中間点に掘る予定だった井戸は道路状況の悪化でトラックが通れず、シェレニ地区でも3か所試掘しましたが、どうしても水が出ず、井戸業者はあきらめたとの連絡がありました。お手伝いいただいた鈴記先生、ありがとうございました。

12月2日のムワンタヤでの巡回診療は、患者数102名、マラリア1名、かぜが多く、体の痛み、皮膚疾患がそれに続きました。私たちの到着時、建物の部屋に鍵がかけられ、部屋の中にはヘルスポスト建設の器材が詰め込まれ、とても診療ができる状態ではありませんでした。コミュニティメンバーの一人が鍵をこじ開け、部屋の中の片づけを始めましたが、巡回診療の予定日であったのに、何の準備もされておらず、情けなかったです。また、巡回診療の建物の前にある井戸は多くの人が使っていましたが、井戸の周囲の柵がまだできておらず、排水口もきれいではありませんでした。排水口に大きな穴をほり、大きな石を埋めて水が溜まらないようにしなくてはなりません。そうしないとマラリア蚊の繁殖する水たまりになってしまう恐れがあるのです。何度も何度も言ってきたことが実行に移されておらず、仕方なくチェーンで鍵をかけました。

それでもだれも排水口の穴掘りを始める人はいません。私は腹が立ってしかたなく、素手で穴掘りを始めました。みかねてようやく3人のコミュニティメンバーがスコップなどを持ってきて穴掘りを始めました。排水口がきれいにならない限り、今日は帰らないと言いましたが、夕方までには何とかきれいな排水口になりました。ルアノはトンガ族がほとんどですが、ムワンタヤはいろいろな部族がいて、なかなか協力し合わないのだそうです。新しく掘ったソングラの井戸を見に行きましたが、こちらは、柵は途中まででしたができていて、排水口もきれいでした。ヘッドマンにもう少し深く排水口の穴を掘ってくれるようお願いしました。



井戸に集まる多くの人

ORMZ ニュース第49号でご報告したムワンタヤから開始した再研修セミナーを、ニャンカンガ、ルアノ地区でもNHC（ネイバーフッドヘルスコミッティ、巡回診療の手伝いをしてくれるコミュニティメンバー）とコミュニティヘルスワーカーの1日セミナーを開催しました。ほぼ全員の関係者が出席してくれ、主催者としてはうれしい限りでした。

11月27日には、ムレタさんの住んでいるルカタ地区でドラマグループを使った啓発活動を実施しました。全く初めての試みでした。お葬式と重なり、出席者は70~80名と少なめでしたが、みんなとても楽しそうに、ダンスに参加し、興味深く寸劇を見ていました。徳島大学の医学生吉田さんが実はプロのドラマーで、持参された打楽器を演奏して下さり、みんな大喜びでした。ありがとうございました。



ルカタ地区での啓発の様子

ルアノでは水がでず、急遽、ニャンカンガで2基井戸を掘ることになり、4人のヘッドマンやネイバーフッドヘルスコミッティメンバーとの話し合いをもち、掘削場所の決定を行いました。2-3日中に掘削が始まる予定です。井戸の掘削が終わるまで、何とか激しい雨が降りませんようにと祈るような思いです。

毎日忙しくしています。どうぞみなさま、お元気で、かぜなどひかれませんようにお過ごし下さい。

活動見学報告（徳島大学医学部 吉田規朗さんから）

徳島大学医学部3年生の吉田規朗です。11月21日から1週間、山元先生のザンビアでの活動に同行させて頂きました。

月曜日と火曜日は薬の買出しと、巡回診療用具の積み込み作業を少し手伝わせて頂きました。薬は住民のリクエストに応えるうちに数が増えたようで、コンテナに隙間なく収納されていました。

水曜日はモバイルクリニックでルアノに行きました。何故そこに集落があるのか不思議に思うような、道なき道、河、岩場を2時間ほどかけて渡る場所でした。私は山元先生、北海道大学の山口先生とルアノ周辺に ORMZ が掘った井戸の視察に向かい、患者の診察は鈴記先生とクリニカルオフィサーのムレタさんが引き受けることになりました。スタックさせないドライバーの運転技術もさることながら、延々と続くブッシュの中を迷うことなく進み各井戸をめぐり、きちんと戻って来られる方向感覚と記憶力に驚かされました。井戸はどれも大切に使われていて、出会った村の人たちは皆嬉しそうにしていました。



水汲みをする
吉田さん

金曜日は健康啓発活動を見学しました。今回は歌と演劇による、マラリアと下痢についての啓発でした。構成も技術もしっかりしていて、啓発とエンターテインメントのバランスがうまく取れているものでした。私はこの日にザンビアを離れるため、今回の視察で出会った方々へのお礼の意味も込めて打楽器を少し演奏させて頂きました。住民の方々も盛り上がり踊ってくれて、胸が熱くなりました。

以下は帰国してからの感想です。私は山元先生の活動の見学前に、ミニルンガというザンビア北西部の小さな町で、鈴記先生の医療ボランティアの様子を一週間見学していました。そこで途上国支援において医師として働くことの限界について考えさせられました。もちろん必要な支援であり、日本では得難い経験になります。しかしその地域のドクターの負担を減らす、医療の質を高めることはできても、根本的な病因を減らす、取り除くためにはインフラの整備が不可欠であると感じました。

安全な水、物資を運びやすい道、安定した電気。その中でもまずは水さえあれば、命をつなぐことが出来ます。今まで井戸がなかった、車で2～3時間の一带に、ORMZ が安全な水をひいたというのは本当に意義深いことだと思います。今後この地域で、生活の質は大きく向上することは間違いありません。

山元先生は他にもご自身のポケットマネーからスタッフや知り合った方の学資の援助などを行っているようで、そのひたすらに献身的な姿勢に打たれました。ルアノへの道中でも、強烈な日差しの中、冷えた水を自分の分は後回しにして他の人に配っていました。先生はすごいですね、と言うと、偉いのは私が日本にいるときも巡回診療を続けているスタッフたちです、と返されました。

私も、先生のように自分の食べるパンを人に分け与えられるようになれるだろうかという問いが、この視察で一番の収穫です。本当にありがとうございました。

活動を振り返って(日高良雄)

ザンビアの辺地医療を支援する会 (ORMZ) を設立して、足かけ4年が経過しました。山元香代子先生のザンビアでの活動を支援するために設立した会ですが、皆様のご支援で、巡回診療や啓発活動のみならず、飲料水確保の井戸掘削ができ、本当にありがたく感じています。

また、今年1月には認定NPO法人となり、ご寄付に対して税控除が可能となりました。

さらに3月には、山元香代子先生が医療功労賞を受賞され、天皇皇后両陛下の拝謁という栄誉を受けることができました。そして5月には四日市東ロータリークラブ創立30周年式典での寄附贈呈や、10月の宮崎日日新聞社賞受賞、11月の公益財団法人ソロプチミスト日本財団活動資金援助団体への選出と、本当に多くの賞等に選ばれ、とてもありがたい一年でした。皆様に重ねてお礼申し上げます。

以上

今後ともどうぞご支援のほどよろしく申し上げます